

令和元年度(2019年度)地方創生推進交付金事業の検証結果について

交付金対象事業の名称		事業概要					
地域間連携による「稼ぐ力」「新たな人の流れ」創出プロジェクト (久留米広域連携中核都市圏4市2町での広域連携事業)		久留米広域連携中核都市圏として、圏域が一体となって、地域資源を活かして、地域の稼ぐ力を最大限に引き出し、「しごと」の創生に取り組む。また、圏域の魅力を磨き上げ、訪問者や滞在時間を増やし、観光消費額の増加につなげる。観光の「稼げる産業化」に取り組む。 ■圏域の各市町の地域資源を活かした地域の稼ぐ力の向上 ■観光資源、産業、文化芸術・歴史資源など連携町の各自の強みを生かした資源を磨き上げる ■新たな魅力の創造・発信による観光客獲得や定住人口確保に向けた取組展開					
事業開始	事業終了	重要業績評価指標(KPI)					
2019年4月	2020年3月	大川市事業費 (うち交付金額)	指標	基準値	目標値 (2020年度)	2019年度 実績値	
実施内容		大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 からの意見・提案・まとめ					
実施内容		今後の方針					
<p>《ブランド育成事業・インテリア人材育成事業》 実施主体:大川商工会議所への補助 ○木のきもちブランドについて、新たに4作品を制作し、トータル20作品を制作。商品数の充実により体験やワークショップへの対応も可能となつて、「モナカスツール」が福岡デザインアワード大賞受賞、「マルシェキツ」がウチデザイン賞を受賞し、本市の魅力発信につながっている。 ○大川の家具産業に関わりを持つ人材を育てることを目的とした「大川家具職人塾」を開催。7名の塾生に対し、40日間開催し、アームチェア、テーブルの製作を通じた指導を行った。起業者1名、市内就職者2名。</p>		5,000,000 (2,500,000)	商品開発数【累積】(回)	0	20	20	今後、職人等の人材育成、後継者の確保の費用対効果も含め事業継続について検討していく。 市内外の展示会、即売会、イベントに積極的に参加し、木のきもち事業活動及び木のきもち商品をPRしていく。
<p>《インテリア産業強化支援事業》 実施主体:(一財)大川インテリア振興センターへの補助 インテリア産業の底上げを図る事業を実施 ○新商品・新技術開発支援事業・・・頑張る企業支援事業 ○需要開拓事業・・・IFFT出展、東京キフトショー出展、国際ホテルレストラン出展等 ○産地PR事業・・・電子ブックによる情報発信、インテリア情報誌の発刊 ○人材育成事業・・・技能者養成研修、デザイン甲子園、藩境木育ひろば ○調査研究事業・・・地域材の利活用に関する調査研究、インテリア産業関連統計資料 ○収益事業・・・国・県森林環境税対策および関係機関との連携促進</p>		10,049,845 (5,024,922)					収益事業の取組みが依然として低く、収益増となるよう大川市と大川インテリア振興センターが一体となり取組む。
<p>《インテリア産業販売促進戦略構築事業》 実施主体:(一財)大川インテリア振興センターへの補助 ○【OKAWASHIP事業】 「木工万能産地大川」の商材を広く認知してもらうため、東京都港区のTABLOIDにおいて「BOMBOO EXPO 1 2」を開催。 文化や経営リテラシーを上げるため、家具関係ユーザーを対象とした連学連夜公開セミナーを開催(50名参加)。 ○【TATEGUMI PROJECT】 若手建築家と建具事業者との出会いの場づくりを行い、新たな建具による空間づくり、建具による空間の可能性を模索するモノづくりに取組むため、福岡市イムズ、東京都港区TABLOIDにて展示会を開催。 ○【BtoC向けプロジェクト】 本市の観光スポット(店舗や商品紹介等)をアピールするため、「観光カード」を作成し、大川テラツツァに設置。 ○【振興センター強化プロジェクト】 販路開拓に向けて業務を円滑に進めることができるよう、専門的な知識・経験をもつスタッフを雇用。</p>		33,316,708 (16,658,354)	インテリア関連産業の生産高(億円)	366	500	工業統計調査 結果公表待ち 【参考】 (H28)384	引き続きB向け、C向け事業を展開し、受注高を上げていくとともに、「大川家具」の認知度を上げていく。
<p>《海外販路開拓調査研究事業》 事業主体:(協)福岡・大川家具工業会への補助 ○海外バイヤー展示会招致活動及び市場調査事業 ンガホールを訪問し、販売店・バイヤーや商社に対するの招致活動。 ○海外市場における大川家具のPR及び展示販売会事業 香港で開催された展示会に出展。現地のバイヤーや商社等に大川市での展示会への招致活動。 中天津の伊勢丹百貨店の展示会に出展。</p>		2,003,788 (1,001,894)					・今後もインターネットツールを活用した広報の充実が重要である。 ・地域団体商標「大川家具」とPRロゴ「大川家具」を活用し、大川ブランドの認知向上を図っていただきたい。 ・人材育成事業として、市内の高校と協力し、木工産地の持続可能な産地づくりを継続してほしい。 ・引き続き「ネコ家具」と言えば「大川」となるようなブランディング、認知度拡大に努めてほしい。
<p>《家具展示会事業》 事業主体:(協)福岡・大川家具工業会への補助 ○産地大川で展示会を開催(年4回) 産地「大川」において年4回の展示会を開催することで市内事業者の展示会への出展を容易にし、営業活動の促進及び販路拡大と併せて、家具関連企業や消費者に産地としての技術力の高さをアピールすることで産地の技術向上、競争力の強化を図った。</p>		5,000,000 (2,500,000)					・木工産地「大川」として、家具・建具・木材・化粧板など、総合的な海外事業展開を検討してはどうか。 ・シティセールス及び観光分野については、成果は上がっていると思われる。インテリア産業関連については、KPIが把握できていないものもあるが、個別に判断すれば成果が上がってきていると見られる。
<p>《アンテナショップを活用したシティセールス事業》 【テレビCM制作・放映、YouTube動画制作】 ネコ家具CM1本及びYouTube動画3本の新作を制作。毎週水曜日KBCのモーニングショーで、年間を通じて大川市ブランディングCMを放映。その他、「ネコ家具LAB!!」の実施に合わせカタログ・ポストカード・ステッカーを制作。 【ホームページコンテンツ制作】 令和元年度は、ネコ家具の新作4点を制作。これに伴い、職人MADE大川家具のホームページをリニューアルし、多言語化(英語・中国語)も行った。 【木工まつりPR】 九州5県(福岡・佐賀・長崎・熊本・大分)で木工まつりのPRを行った。好調な来場者数を記録(産業会館来場者4.9万人)。 【首都圏等での展示会・イベント開催】 ・ネコ家具LAB!! ・代官山T-SITEで2日間開催。 ・松山三越ネコ家具展(8/10~12) 旅するいっぴんいち出展(9/14)</p>		69,928,350 (34,964,175)	メディア登場回数(回)	100	300	347	新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年度は首都圏等における年度内のイベント開催は実施が困難。木工まつりや大川家具のPRの実施については、WEB活用を中心に展開していく。
<p>《インテリア産業・観光の情報発信拠点》 「大川市観光・インテリア情報ステーション 大川テラツツァ」の施設維持管理を実施。</p>		836,226 (418,113)	昇開橋来訪観光入込客数(人)	56,000	80,000	72,317	観光情報発信施設として引き続き実施する。
<p>《マイスターズ・リズム推進事業》 実施主体:大川観光協会への補助 ○物産販売・観光案内機能 平成29年4月にオープンした大川市観光インテリア情報ステーション「大川テラツツァ」において、来訪者への観光案内、家具見物客の案内、ワークショップの提供を実施。令和元年度においては、大川観光協会のHPのリニューアルを実施し、動画を多用し、多言語化(英語・中国語)にも着手。 ○イベント開催 大川テラツツァGWイベント(4/30~5/5)、えつまつり(6/23)等。</p>		6,836,226 (3,418,113)	大川市観光入込客数(万人)	68	80	76.4	デジタル化に対応した観光PRを行うためには、HPの改善・改修は毎年実施していく必要がある。併せて、研修等を通じたスタッフのスキルアップも図る。

交付金対象事業の名称		事業概要						
県民総活躍社会の実現プロジェクト (福岡県及び関連市町との広域連携事業)		高齢者、女性、障害のある人、若者など多様な主体が、それぞれの能力を発揮しながら、地方創生を担う人材として活躍する全員参加型の社会を目指す。						
事業開始	事業終了	■多様な主体が活躍する地域社会の実現に向けて、県の地域振興プロジェクトと連携して、筑後七国の観光・物産PR事業を実施						
2019年4月	2020年3月							
実施内容		重要業績評価指標(KPI)				大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 からの意見・提案	今後の方針	
		大川市事業費 (うち交付金額)	指標	基準値	目標値 (2020年度)			2019年度 実績値
<<福岡ソフトバンクホークス・ファーム本拠地を活用した筑後七国の活性化>> 実施主体:筑後七国活性化協議会(構成団体:筑後市、柳川市、八女市、みやま市、大川市、大木町、広川町) ○「筑後七国観光フェスタ」事業 ○観光情報発信事業 ・観光プロモーション映像の制作、旅行情報誌への記事掲載、筑後七国スタンプラリー、WEBサイト「筑後七国よ かとこ巡り旅」運営、筑後七国着地型観光ツアー、筑後七国県外観光PR事業 ○その他 ・筑後七国観光ボランティアガイド研修会		508,000 (254,000)	大川市観光入込客数(万人)	68	80	76.4	なし	新型コロナウイルス感染症が観光に与える影響は大きく、これまでの観光事業の見直しは避けられない。インバウンド事業を据え置き、県内・九州管内の観光客向けの誘客事業・観光PRからスタートする必要がある。筑後七国による広域観光の取り組みは効果が高いと思われるため継続して取り組む。